

SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

ザ・サード・ポケット (社長の3つのポケット)

今から4年程前、初期の頃のレポートにこんなことを書いた。

.....大手経営コンサルティング会社が企業経営者に対し「銀行にはウソを言ってはいけない。しかし、本当のことを言ってもいけない」と教えていると聞いた時、正直なところ私はドキッとした。何故ドキッとしたのか考えてみると、18年に亘る銀行営業店勤務の中で誰に教えられたわけではないが、「取引先にはウソを言ってはいけない。しかし、本当のことを言ってもいけない」と云ってもいい銀行員体質と相似形であることを直観したからだ。.....

あれから4年の歳月が流れて、銀行を中心とした金融システムは後戻り出来ない大変動に見舞われた。企業の銀行取引も当然ながら大きく変化している。そんな中で、お互い「本当のことを云わない」関係は、むしろ更に強くなっているのではないだろうか。

銀行に云いたくない「本当のこと」とは何だろうか。銀行が云いたくない「本当のこと」とは何だろうか。環境や個別の立場によって色々違うだろうが、それぞれ微妙な問題であるに違いない。資金調達を銀行に依存している中小企業の社長の立場にたつて云えば、債務者として当然報告すべき事項と、積極的に報告したくない事項と、そして出来るならば隠しておきたい事項がある。その行為がプラスに作用するか、マイナスに作用するかは別として、それはむしろ自然な傾向だと思う。資金調達に不利になるような事項を敢えて積極的に報告する社長は少ない。それは「我が銀行にはこんなに多くの不良債権がある」等と公言する銀行がないのと同じことだ。そうした意味で云えば、銀行と債務者である企業は表面的には兎も角、お互い腹を探り合う関係にある。

長い取引、深い信頼関係、それが大切なことであることは否定しないが、昨今の金融環境は、いとも簡単に情実を切り捨てて行く。表現は悪いが、お互いドライになりつつあるのだ。

今週水曜日の新聞に、日本興業銀行が「そごう」前会長水島氏の預金を仮差押えしたことが報じられた。法学徒水島氏が簡単に差押えされる

ような預金を持っていたとは信じられないが(報道によると再生法申請後預金引出しにかかった)、水島氏は日本興銀にそごうの連帯保証人になっていたからには仕方ない。少しでも貸出金を回収すべく、預金の保全を図ったのだ。

今、水島氏は悪者経営者扱いされているが、かつては日本を代表する経営者としてその評価は高かった。F総研の会長で高名な経営コンサルタントF氏がその著書の中で水島氏を非常に高く評価していたことを思い出す。時代が変われば評価軸も変わる。ただそれだけのことも知れないが、何だか寂しい。

水島氏の話はさておき、中小企業の社長はどのように金融資産を持つべきだろうか。そんなことに以前から関心を持ってきた。もちろん、安全性・収益性・流動性という古典的3基準は今でも最も重要であるが、しかしそれだけでは非常時には対応出来ない。何を持つかも重要なのだ。

私は3つのポケットを持つべきだと考えている。一つ目のポケットは、取引銀行に置く預金である。水島氏のように差押えられることも覚悟するが、自社借入の信用補完を図る意味からも必要なものである。

二つ目のポケットは保険である。これこそ収益性だけでなく安全性と流動性が重視されなければならないが、リスクマネジメントの一環として欠くべからざる金融商品だと思う。当然であるが、掛金払込みや振込口座は債務のない銀行を指定しなければならない。

そして三つ目のポケット(ザ・サード・ポケット)であるが、このポケットは長期的視点で資産形成を図るポケットとなる。しかも簡単に指を触れさせないようにする。その為には買う場所と買う商品を間違えないようにするのが肝要であるが、長期投資・分散投資を旨とする投資信託が最も適していると思う。

そんな眼でもう一度資産構成を見詰め直したらいかがだろうか。

§お知らせ§

第三のポケットでの資産形成に役立つべく、今月より投資信託の販売を始めました。所属は、自由と独立を標榜するアドバイザーテック証券です。世界から選りすぐった商品を提供して参ります。定期的に案内を添付させていただきます。